【ノート】 大学入試研究ジャーナル第 34 号，243-247，2024

# 山梨大学志願者の居住市町村ごとの特徴

齊藤 太郎（山梨大学）

これまで山梨大学では，山梨大学 IR 室や，担当事務である入試課によって，入試志願者に関する分析が行われてきた。しかしながら，都道府県別の志願者の推移や傾向については分析されているものの，市町村単位における，志願者の特徴や変化についてはこれまで分析されていなかった。本調査では，各都道府県の地域ごとにおける志願者の特徴と変化を考察することで，今後の本学入試広報活動における方向性について，検討を行った。その結果，山梨県内をはじめ，隣接都県などの入試広報重点地域について，一報告を行うことができた。

キーワード：山梨大学志願者，山梨県隣接都県，18 歳人口に対する割合

## 1 はじめに

本学（以下，山梨大学）が置かれている山梨県は，東京都，神奈川県，埼玉県，長野県，静岡県と隣接しており，東京大都市圏の一部として扱われることもある。しかしながら都道府県別志願者の実態では，主に地元山梨県の高校に通う志願者が長年に渡り大半を占めている。また，静岡県や長野県からの入学者が多い印象を持つ教職員や地域住民も多く，実際に志願者数も当該県が他の隣接都県に比べて多いことがわかっている。

山梨大学の志願者に関する情報については，山梨大学 IR 室や，担当事務である入試課によって，分析や学内資料化，一般公表資料化が兼ねてより行われている。また志願者の倍率や合格実績，男女比，出身都道府県，出身高等学校などのデータがまとめられ，山梨大学の広報活動の展開にも活かされている所である。

一方で，これまで山梨大学では，都道府県別の志願者の推移や傾向については分析されているものの，市町村単位における，志願者の特徴や変化については分析されていない。このことは，山梨県内はもちろん，長野県や静岡県をはじめとする隣接都県や，多くの志願者実績のある愛知県や岐阜県においても，明らかとなっておらず，都道府県ごとの地域を単位とした志願者傾向を把握することは，その後の広報活動の展開の一資料となると考える。

特に昨今，少子化の影響もあり，山梨大学は志願者の減少傾向が続いている。そのため，重点地域を絞ったより効率的な入試広報の展開は，志願者確保につながり，本学の教育・研究水準の確保にもつながることである。本調査では，より詳細な地域ごとの特徴や傾向を整理し，入試広報活動における重点地域について提言することが目的である。

## 2 方法

### 2.1 調査対象

本調査では，本学入試出願システムにおいて，出願された受験生の山梨大学入試出願データを活用した。対象志願者は平成 30 年度から令和 4 年度入試の 5 年間とした。また，そのデータから，留学生，を除いた前期入試，後期入試等を含めた志願者延べ人数として用いた。さらに，山梨県においては，高等学校（以下高校）等における広報活動展開への資料を得るために、高校の所在地の市町村における各都県の志願者についても割合として算出して，比較検討対象とした。

### 2.2 調査方法

山梨県隣接都県及び，これまで比較的入学実績のある愛知県，及び岐阜県からの，山梨大学への志願者（延べを含む）それぞれの居住地を市町村単位の 18 歳人口に対する割合で算出した。18 歳人口に対する割合を算出することで，より地域の傾向が読み取れると考えたためである。また，山梨大学医学部医学科を除いた割合と志願者数の推移で比較・検討を行った[1)]。さらに，志願者の実数の推移をグラフ化し，地域ごと[2)]の特徴や傾向について考察し，入試広報活動重点地域の選出を行った。尚，各市町村における 18 歳人口については，当該都県，もしくは市町村の住民データを参照し，該当年度における 18 歳人口とした。他方，市町村名のみの算出だと，より明確な資料を得られる反面，小規模の自治体の場合，18 歳人口がない場合や，個人が特定されてしまう場合があるため，都県ごと地域を分けて整理した。

## 3 結果

図 1 は調査対象都県の 18 歳人口に対する居住地域

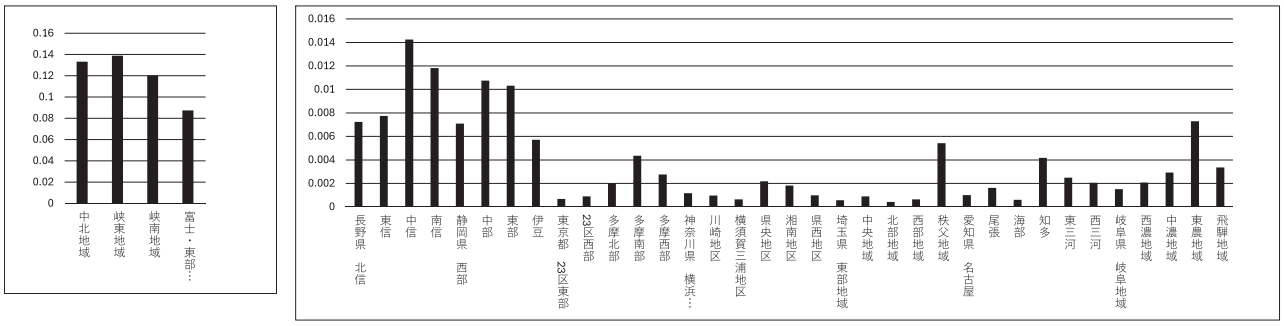


図 1 調査対象都県居住地域別志願者割合（左図は山梨県，右図はそれ以外の都県）

別志願者割合である。人口比を考慮しつつ，以下に調査対象都県の結果を示した。尚，志願者は延べ出願者数であり、浪人生も含まれている。

### 3.1　山梨県の実態

図 2 は山梨県居住地域別志願者数推移の人数である。また図 3 は山梨県内高校所在地別にみた志願者数推移である。

本学の所在地である中北地域が多く，比較的距離の近い峡東地域の居住地である志願者は中北地域と比べると少なかった。また，距離の離れる峡南地域，富士・東部地域の志願者が少ない傾向が見られた。一方で高校所在地ごとにみると，中北地域の割合が高くなり，峡東地域や峡南地域の割合が低くなる。このことから，峡東や峡南地域から中北地域に通う高校生の多くが，本学の志願者となる傾向が高いことがわかる。一方で，富士・東部地域は志願者の居住地と高校の所在地がほぼ同じ数値であることから，居住地域の所在高校に通う高校生の中から本学を目指す高校生が一定数毎年いると見ることができる。そのため，入試広報では，志願者の高校所在地の多い傾向のある中北地域の高校訪問や出前授業などを通した広報活動，また富士・東部地域では高校訪問に加えエリア広域における広報活動を通し，志願者数の底上げを図ることが望まれると考える。一方で，峡東地域，峡南地域は人口に比して志願者が多く，本学を志願する傾向があるため，広報活動を継続して行っていく必要があると考えられる。

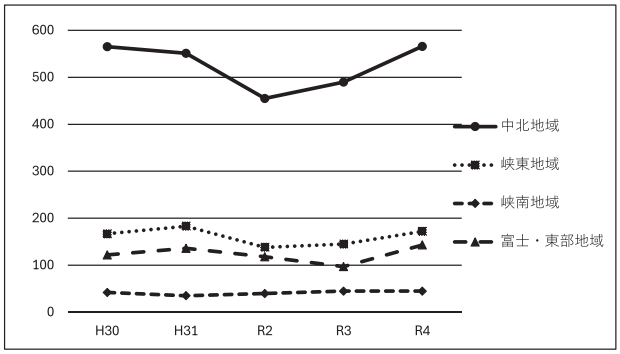


図 2 山梨県居住地域別志願者数推移

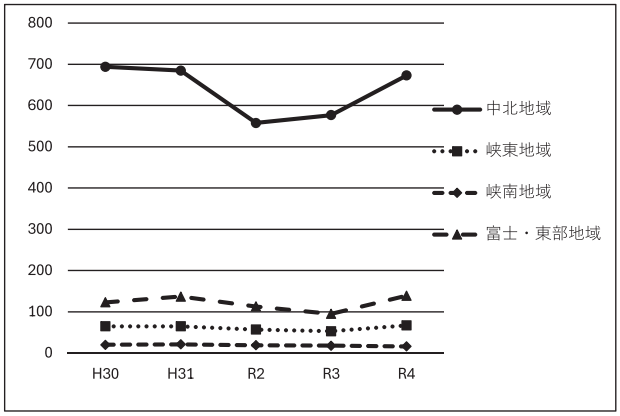


図 3 山梨県内高校所在地別にみた志願者数推移

### 3.2　長野県の実態

図 4 は長野県の居住地域別志願者数推移である。長野県は，松本市をはじめとする中信地域，諏訪市をはじめとする南信地域の志願者数が多く，人口を考慮しても多い志願者傾向がみられた。特に，JR 中央本線及び篠ノ井線（塩尻～松本間）沿いの都市部や中央道沿いの地域が目立った。JR を活用すると，長野駅と

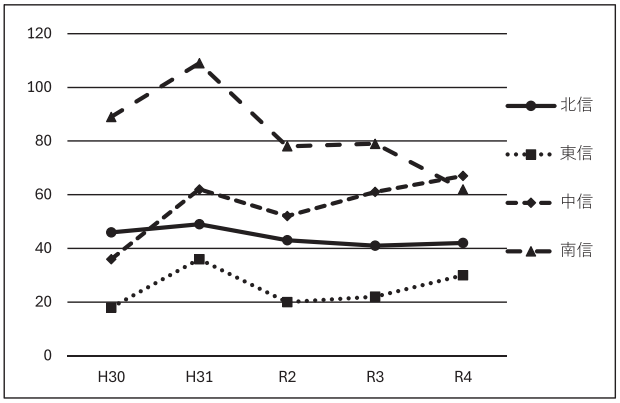


図 4 長野県居住地域別志願者数推移

甲府駅間は乗り換えなしで直通できる列車の運行が毎日あり，さらには松本駅と甲府駅間は毎時間1本程度の特急列車の運行もある。実際に本学には長野県から通学している在学生も見られていることからも，交通アクセスの良さと本学志願への影響は一定程度あると考えられる。

### 3.3　静岡県の実態

図5は静岡県の居住地域別志願者数推移である。静岡県では，富士市，富士宮市，沼津市などの東部地域と，静岡市をはじめとする中部地域の志願者が人口を考慮しても多かった。一方浜松市などの西部地域は，志願者数は多いものの，志願者が人口に比して少なかった。山梨県と隣接している地域，JR身延線及びJR東海道本線沿線や中部横断道（新清水JCT以南は東名･新東名高速）沿道地域の志願者が多い結果となった。静岡県からは実際に通学している在学生の声はあまり聞かないが，JRや高速バス（甲府駅－静岡駅間）など甲府市との交通アクセスがよい地域であり，週末など利用し居住地を容易に往復できるなど，物理的距離の近さが志願者数の高さに影響していると考えられる。

長野県，静岡県ともに，人口を考慮しても，志願者が他の山梨県を除いた都県と比べて多かったことからも，県全体でも重要な広報エリアであると考えられる。特に，また，いずれの県境沿いに位置する山梨県の言葉（方言）や文化，生活圏はそれぞれ近いものがあり，山梨県に対する親近感や安心感があることも少なからず影響していると思われる。そのため，長野県や静岡県では，甲府市との交通アクセスのよい地域に限定した広報活動の展開も効果が見込まれると考えられる。

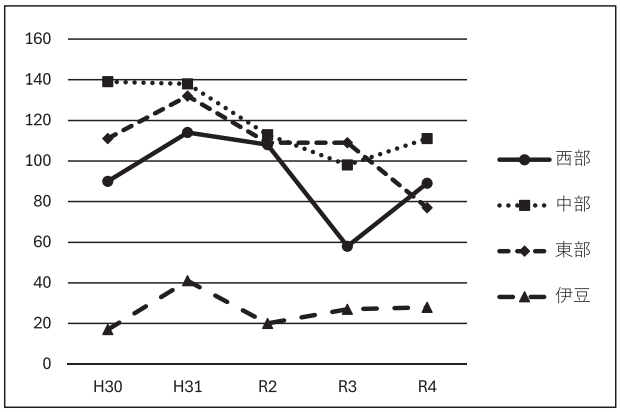


図5 静岡県居住地域別志願者数推移

### 3.4　東京都の実態

図6は東京都の居住地域別志願者数推移である[3)]。東京都は，八王子市をはじめとする多摩南部地域，青梅市をはじめとする多摩西部地域が人口を考慮すると多かった。一方で，23区西部地域は人口の割に志願者は少ないものの，多くの志願者がいることがわかった。このことからも，山梨県と隣接地域やJR中央本線沿いで比較的山梨県に近い地域が多いことが示唆された。

東京都と山梨県は30分に1本程度，JR中央本線の新宿駅（一部東京駅）から立川駅，八王子駅に停車し甲府駅へ向かう特急列車もあり，新宿駅と甲府駅を往復する高速バスも30分に1本程度あるなど，本来かなりアクセスのよい地域である。一方で，静岡県や長野県ほどの志願者数や割合がなく，むしろ好アクセスを内容とした広報活動の展開が望まれる地域であると考えられる。

他方，山梨県内から東京都内の大学に通学する学生は多く，甲府市の通学補助金制度をはじめ，県内各地域で充実している。一方で，東京都から山梨大学に通学する場合の補助金等を県内の自治体等が補助する仕組みは見当たらない。これらの点については別途調査が必要である。さらに東京都から山梨県に入る場合，都市部から山地や峠を必ず通過せねばならず，静岡県や長野県と比べ，山梨県に来るためのアクセスの良さなど，精神的距離の遠さの払拭を広報内容に入れることも必要と思われる。

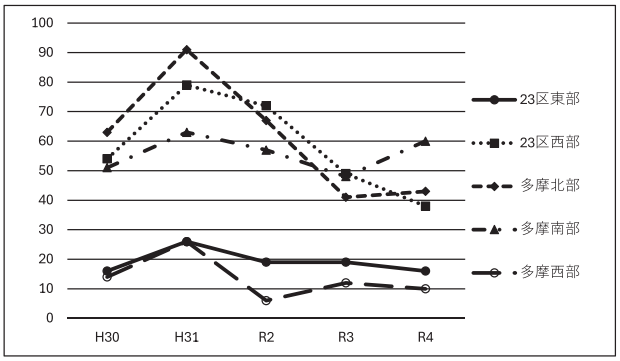


図6 東京都居住地域別志願者数推移

### 3.5　神奈川県の実態

図7は神奈川県の居住地域別志願者数推移である。神奈川県は山梨県に隣接しているものの，他の隣接都県に比べると全体的に人口に対して志願者が少ない。特に隣接している相模原市の所在する県央地区でも志願者が少なく，横浜地区が多い傾向にあった。

神奈川県との交通アクセスは相模原市の旧相模湖町

や藤野町は JR 中央本線の沿線となるものの，その他の地域には JR の直通はなく，甲府駅と横浜駅を結ぶ高速バスはあるものの，本数や時間に制約があり，通学に適しているとは言えない。

他方近年県央地区でも他の地域より人口の割に高い割合を示す傾向が見られ，今後リニア中央新幹線開業を見据えると本学へのアクセス向上が見込まれることからも，重要な広報地域であると考えられる。

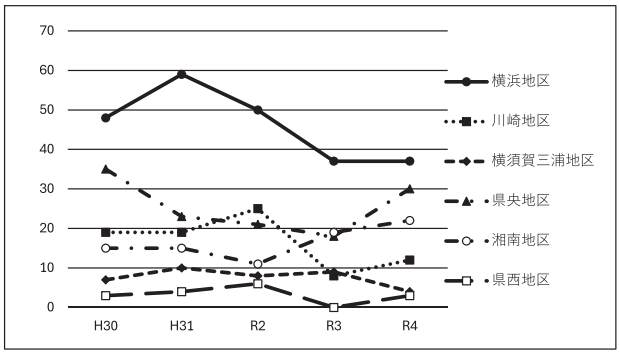


図 7 神奈川県居住地域別志願者数推移

### 3.6　埼玉県の実態

図 8 は埼玉県の居住地域別志願者数推移である。埼玉県は，山梨県と隣接しているものの，県同士を相互に直通する公共交通手段はない（一部臨時列車を除く）。隣接部である秩父地域は，志願者が少ないものの，人口の割に志願者が多かった。静岡県や長野県と同様に山梨県との隣接地域における山梨県への親近感もあるものと思われる。

一方でその他の地域では顕著な差が見られなかった。秩父地域の高校生は地域の進学校の影響もあり，埼玉県内の中央地域や北部地域に通学する生徒も多いと聞く。そのため，広報重点エリアは，中央地域や北部地域を重点的にすることで，秩父地域居住の志願者に対しても広報活動となることが考えられる。中央地域や北部地域の高校などへの広報活動の充実が有効であると考えられる。

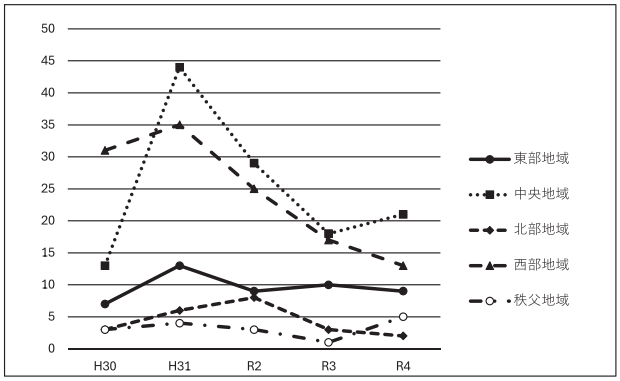


図 8 埼玉県居住地域別志願者数推移

### 3.7　愛知県の実態

図 9 は愛知県の居住地域別志願者数推移である。愛知県は，大都市部である名古屋地域は志願者数が他の地域や人口に比べても少なかった。一方で豊橋市，豊川市などをはじめとする東三河地域や知多地域は人口の割に志願者が多い傾向が見られた。東三河地区は距離では山梨県に最も近い位置であり，新幹線や新東名・中部横断自動車道で山梨県へのアクセスもよくなった地域であるため，今後の動向を注視する必要が感じられると同時に，広報活動も重要な場所となりえると考えられる。一方で，愛知県内で山梨大学工学部の入試が受験できるなど，学部ごとや工学部志望の志願者動向の検証など，今後の課題が残った。

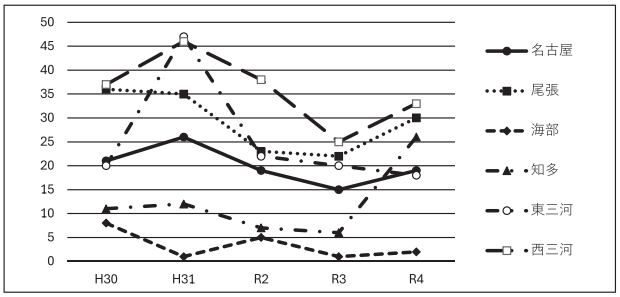


図 9 愛知県居住地域別志願者数推移

### 3.8　岐阜県の実態

図 10 は岐阜県の居住地域別志願者数推移である。岐阜県では，東濃地域が人口を考慮しても志願者が多かった。東濃地域には中津川市，多治見市，など中央本線，中央道沿線地域であり，山梨へのアクセスのよさも多少なりとも影響している可能性が考えられる。

愛知県や岐阜県は，決して山梨県が近いわけではない。一方で志願者の割合が多い地域が存在しており，その中でも比較的アクセスがよい地域や，地域の文化

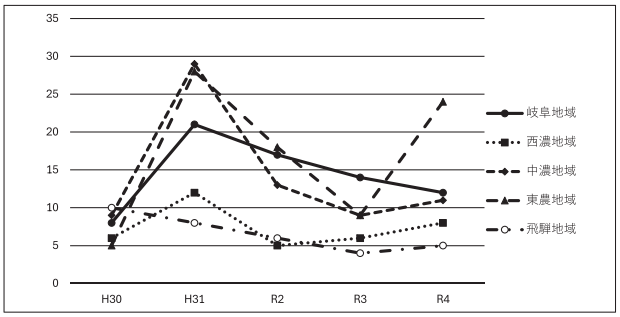


図 10 岐阜県居住地域別志願者数推移

的要因，山梨大学への志願を前向きに検討してもらえる，高校や保護者の存在など様々な要因が考えられる。

## 4　まとめ

以上を踏まえて，志願者の特徴と変化，を考察することで，以下の入試広報活動における方向性について整理した。

・山梨県は主に中北地域の高校からの志願が多い。一方で富士東部の志願者の割合が低い傾向がみられることから，山梨県内であっても広報活動の余地が残されているのではないか。
・長野県，静岡県，東京都では，特に交通のアクセスのよい地域からの志願者の割合が多く見られた。鉄道で乗り換えなしで甲府まで来ることができるエリアを重点的に広報活動してはどうか。
・愛知県では東三河地域，岐阜県では東濃地域など，裏付けられる理由が少ないものの，志願者の割合が顕著に高い地域が存在した。安定的に割合が高い地域は，その地域の文化的要因など様々な可能性も考えられるため，安定した広報活動の取り組みが効果的なのではないだろうか。山梨の身近さ，暮らしやすさ，高校の認知度の高さなど，生活実態調査などの調査結果を踏まえてより深く考察する必要がある。

## 5 おわりに

本調査を通して，山梨大学では，①身近な（交通アクセスがよい）場所で割合も高い地域（山梨県中北地域・長野県南信地域，中信地域・静岡県中部地域，東部地域）②身近な場所ではあるのに割合が低い地域（山梨県富士・東部地域・神奈川県県央地域・埼玉県秩父地域）③身近な場所ではないが，割合が高い地域（静岡県西部・愛知県東三河地域）を重点地域として，現在でも入試広報活動に取り組んでいる。そのため，今後に渡って志願者の変化などの効果を検証することで，志願者を市町村ごと地域別に調査した意義が明らかになってくる。本調査で課題として残っている点と合わせて，今後の研究課題として，継続して調査していきたい。

## 注

1）山梨大学医学部医学科は平年志願者倍率が高く，広報活動の展開で考えた際，医学科以外の傾向を考察する必要があるため，医学科を除いて算出を行った。
2）各都県ごとの人口区分等の資料を参考に，「地域」分けをしているが，資料により地域名や市町村区分が違うものもあり，本調査では筆者の判断で地域名と市町村区分を選定している。
3）東京都は島しょ部を除いて算出した。

## 参考文献

愛知県「愛知県の人口」
https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/0000088841.html（2023年4月27日）
岐阜県「岐阜県の人口・世帯数」
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/274978.html（2023年4月27日）
神奈川県「神奈川県の人口と世帯」
https://www.pref.kanagawa.jp/documents/12035/r5_sassi.pdf（2023年4月27日）
長野県の年齢別人口をお知らせします
https://www.pref.nagano.lg.jp/tokei/happyou/documents/nenrei0510.pdf（2023年4月27日）
東京都の統計「東京都の人口（推計）」
https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/juukiy/jy-index.htm（2023年4月27日）
埼玉県「埼玉県推計人口」
https://www.pref.saitama.lg.jp/a0206/a009/r03age.html（2023年4月27日）
静岡県「静岡県人口推計」
https://toukei.pref.shizuoka.jp/jinkoushugyouhan/data/02-040/04nenreibetsu.html（2023年4月27日）
山梨大学（2019）『入学者選抜方法研究報告書2019年度版』山梨大学アドミッションセンター
山梨大学（2023）『IR室レポート101』（教職員限定）
山梨県統計「山梨の人口」
https://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/DB/EDA/B/dbab04000.html（2023年4月27日）